

福山市老人大学第54期 修了式 式辞

本日は、福山市長代理中村副市長のご出席、今岡市議会議長、古谷市老連会長、高橋老大元学長、吉川前学長を始めとするご来賓・講師の先生のご臨席、多くの学生の皆さんのご出席を得て、福山市老人大学 第54期修了式が挙行できますこと、大変嬉しく思っております。

学生の皆さん この1年間、良く頑張って老大に通い学びを続けて来られましたね。いよいよ今期の修了式です。本当におめでとうございます。

今期の老人大学、4月3日、リーデンローズで入学式を行い、本日の修了式まで、年間30回の本講座を柱に、全員教養講座や学生祭などの行事をはじめ、計画していたすべての老大の日常を積み重ねて参りました。

昨年7月10日、1学期本講座の最終週に時のデジタル大臣、河野太郎氏が本校のスマホ講座を視察されました。教室内で学生の間に入って学びの様子を見られ、直接学生に話しかけたりもされました。翌日の朝刊には、「河野太郎デジタル相は10日、福山市を訪れ、同市のデジタル化の取り組みを視察した・・・(中略)・・・市老人大学では、高齢者たちがアプリを使ってアバター（分身）づくりを学ぶスマホの授業の様子を見学した・・・河野氏は視察後、報道陣の取材に応じ「福山のような成功例を全国で当たり前にしていけないといけない」と述べた。」とありました。

当日はスマホ講座視察の後、太極拳講座もご覧になられ、直接、学生に励ましの言葉をかけていただきました。わずか30分ほどの滞在でしたが、非常に緊張もしましたし、老大にとって私にとっても忘れられない日となりました。

9月26日、リーデンローズに老大生約800人の参加を得て、「健康と生きがいづくりに役立つ笑いの力」と題した、「大道芸人たつきゅうさんによる全員教養講座」を開催しました。スティックを4本用いたジャグリングやカラーコーンなどを用いた多彩な演技で会場を沸かすと共に、フレイル予防には「人と会話をする」、「趣味で好きなことをする」、「おしゃれ・おめかしをする」などを実践することが大切です、というようなお話をしていただきました。

あっという間の1時間半、有意義で、笑いが絶えない楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

10月末、第44回学生祭がありました。お天気にも恵まれ、学生やそのご家族、市民の方々の笑

顔が輝いていた二日間でした。老大で積み上げてきた学習を披露する場として、展示やステージ、グラウンドなどでの発表でしたが、いずれも素晴らしい内容で感動する場面も多々あり、生涯学習の質的な高まりに確信を持つことが出来ました。

また、準備から当日の運営、後片付けまで多くの学生が携わり、責任をもってやり切ることが出来ました。「学生全員が主役になる」という老大の伝統が十分に見られた、充実した学生祭でした。多くの市民の皆様にも、元気な老大の姿をしっかりとアピールすることが出来ました。

こうして、この1年の主な出来事を振り返ってみましたが、行事を節目にしながらも皆さんは1年間、暑い日も寒い日も、せっせと授業を目指して頑張って老大に通って来ました。

こうした日々の中で、生涯学習を積み重ねる共に、先生やお友達との絆を深めることが出来ました。きっと、今年も皆さんの生活の中には、老大での学びが大きな位置をしめていたのではないかと思います。

御存知のように、老人大学には「大学運営要諦」として大切にしていることが4つあります。その2つ目「老大の発展は、大切に思う者の自助努力で」（2度）です。今年も次のような学生の姿があちこちで見られました。

- ・ 早朝毎日のように学校へ来られ、校内の草取りや掃き掃除・トイレへの花活けなどしている学生
 - ・ 授業日には早めに登校し、廊下の長椅子や手すりの水拭き、出入口の掃き掃除をしている学生
- こうした方々に、私が“ありがとうございます”と声をかけると、“いやいやお礼など言わないでください。自分がしたくてしているのですから”と話されます。

ほかにも、校内ボランティアとして、バラ花壇を中心に除草をしているグループ、夏季休業中などにも来て草取りをしている方々 などなどです。

また、年2回の「環境整備ボランティア」には約100人の学生が集まって、教室の掃除、校内の草取りや溝の泥上げなどを行います。

こうした、老大を大切に思う者の自助努力が老大を支えています。

心から ありがとうございます。

今年も12月から2月にかけて、福山市医師会看護専門学校生57名が教育実習に来ました。老生にとって、看護専門学校で懸命に学んでいる学生に接することは、元気がもらえる良い機会になっ

ています。一方で、学生たちはみなさんから、非常に多くの貴重な学びを得ているようです。

後日、次のような実習レポートが届けられました。「私は老人大学で実習させて頂いて、高齢者に対するイメージが大きく変わりました。看護学校では、高齢者の加齢変化やなりやすい疾患などを学んでおり、自分の中で高齢者はあまり元気でなく、どんどん弱っていくというイメージがありました。

しかし、老人大学の学生たちは自立して生活しておられ、活発に授業に参加し、学ぶことの喜びや楽しさを感じていること、また学生同士の会話を楽しまれ、その関わりは学内に止まらず活動範囲が広がっていることなど、聞き取りや学内の雰囲気、一人一人の生き生きとした表情から読み取ることが出来ました。

高齢者といっても、老人大学の学生のように自立して生活している人もいれば、病院・施設など介護が必要な人もいます。ただ高齢者としてとらえるのではなく、どんな時代を生きて、どんな生き方・想いがあるのかを知り「一人の人」として関わるのが、その人らしさを守ることに繋がり、寄り添った看護が出来ると思う。出来ないと決めつけるのではなく、出来ることを見つけて共に歩み、その人の居場所を作り出すことが大切だと、実習を通して学ぶことが出来た。」

というものでした。みなさんの姿から、看護学生は大切なことを学んだようです。

旧福山市体育館跡地では、先日、「(仮称) まちづくり支援拠点施設整備業務 安全祈願祭」が行われました。2026年には、まちづくり支援拠点施設が誕生し、2階に老人大学が入ることになっています。創立2年目の後期から50年間、地域の皆様のご理解をいただきながら、地吹校舎で老人大学は学びを続けてきました。

この地での学びはあとわずかとなってきましたが、地域の皆様に感謝し、最後まで温かく見守って頂けるよう、来年も落ち着いた学習環境・学習姿勢で頑張りたいと思います。

そして新しい施設に入った時には、これまでの伝統を大切にしながらも、講師の先生や地域・市民の方々をはじめ、多くの関係者の皆さんとともに、学生の皆さんが主役となって新たな歴史を築いていきたいと思います。

老人大学の一層の充実・発展を図っていく決意を申し述べ、今年度を修了するにあたっての式辞といたします。

2025年（令和7年）2月27日

福山市老人大学 学長 飛田洋悟